

東洋大学大学院文学研究科規程

(趣旨)

第1条 この規程は、東洋大学大学院学則(以下「学則」という。)第4条第5項に基づき、東洋大学大学院文学研究科(以下「文学研究科」という。)の教育研究に関し必要な事項を定める。

(人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的)

第2条 文学研究科は、学則第4条の2に基づき、研究科及び各専攻の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を別表第1のとおり定める。

(学位授与、教育課程編成・実施及び入学者の受入に関する方針)

第3条 文学研究科は、学則第4条の3に基づき、各専攻の学位授与に関する方針、教育課程編成・実施に関する方針及び入学者の受入に関する方針を別表第2のとおり定める。

(教育課程)

第4条 文学研究科は、学則第5条の2及び第7条に基づき、各専攻の教育課程における科目区分、授業科目及び研究指導科目の名称、単位数、配当学年、及び履修方法等を別表第3のとおり定める。

(修了に必要な単位等)

第5条 文学研究科は、学則第12条及び第13条に基づき、各専攻の修了に必要な単位等を別表第4のとおり定める。

(教育職員の免許状)

第6条 学則第19条に基づき、文学研究科で取得できる免許状の種類及び教科は、次表のとおりとする。

専攻	免許状の種類及び教科		
	高等学校教諭専修免許状	中学校教諭専修免許状	その他
哲学	公民	社会	
インド哲学仏教学	公民	社会	
日本文学文化	国語	国語	
中国哲学	国語	国語	
英文学	英語	英語	
史学	地理歴史	社会	
教育学	地理歴史・公民	社会	
			小学校教諭専修免許状
英語コミュニケーション	英語	英語	

(教育職員の免許状取得のための授業科目及び単位数)

第7条 学則第19条第2項に基づき、文学研究科で教育職員の免許状を取得しようとする者は、別表第5に定める所定の授業科目の単位を修得し、東洋大学大学院(以下「本大学院」という。)の課程に1年以上在学し30単位以上修得、又は学則第12条に規定する要件を充足しなければならない。

(改正)

第8条 この規程の改正は、学長が文学研究科委員会の意見を聴き、研究科長会議の審議を経て行う。

附 則

- この規程は、平成29年4月1日から施行する。
- 前項の規定にかかわらず、平成28年度以前の入学生については、第4条別表第3を除き、なお従前の例による。

別表第1 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

文学研究科

人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的
【博士前期課程】 (1) どのような人材を養成し、どのような人材を世に送り出すか 人間の知的活動に関わるそれぞれの専門科目について、高度な知識と教養を持ち、それを実際に活用して主体的に社会の課題に取り組むことのできる人材を養成することを目的とする。 (2) 学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的 人間の知的活動に関わるそれぞれの専門科目について深い理解と洞察力を有し、それを表現できる能力を習得させることを目的とする。 【博士後期課程】 (1) どのような人材を養成し、どのような人材を世に送り出すか 人間の知的活動に関わるそれぞれの専門科目について高度の専門的知識と研究能力を持ち、それによって文化の向上に寄与するとともに社会の要請に創造的に応えることのできる人材を養成することを目的とする。 (2) 学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的 人間の知的活動に関わるそれぞれの専門科目について深い理解と洞察力を有し、それを研究論文として論理的に説明し社会に発信できる能力を習得させることを目的とする。

文学研究科哲学専攻

人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的
【博士前期課程】 (1) どのような人材を養成し、どのような人材を世に送り出すか 理論哲学と実践哲学との統合を目指し、現実と直面する課題に対して問題解決のための様々な提案、アイデアを提起できるような人材の養成を目的とする。 (2) 学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的 哲学理論を核心に据えながらも、医学を含む多面的思考を習得させ、各種境界領域においてさまざまな人的・知的資源を有効に組み立てることのできる能力を習得させることを目的とする。 【博士後期課程】 (1) どのような人材を養成し、どのような人材を世に送り出すか 理論哲学と実践哲学との統合を目指し、深い哲学的知識に基づきながら、現実と直面する課題解決のために様々なアイデアを提起し、かつ自らその実現に尽くすことができるような人材の養成を目的とする。 (2) 学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的 テキスト研究・哲学史・解釈史研究を中軸に据え、伝統的な哲学の場に立って現実社会に対して提言をする専門的研究者に必要な能力を習得させることを目的とする。

文学研究科インド哲学仏教学専攻

人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的
【博士前期課程】 (1) どのような人材を養成し、どのような人材を世に送り出すか 仏教思想と文化、またはインド思想と文化に関する豊かな学識を有し、それらを実社会で活用できる人材を養成することを目的とする。 (2) 学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的 仏教思想と文化、またはインド思想と文化の研究に不可欠な諸言語の十分な能力を習得させるとともに、文献解読や調査等に必要となる社会的能力を習得させ、総合的な研究能力を習得させることを目的とする。 【博士後期課程】 (1) どのような人材を養成し、どのような人材を世に送り出すか 仏教思想と文化、またはインド思想と文化に関して自立的で卓越した研究能力を有する人材を養成することを目的とする。 (2) 学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的 仏教思想と文化、またはインド思想と文化の研究に係わる高度な専門的業務に従事しうる能力を習得させることを目的とする。

文学研究科日本文学文化専攻

人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的
<p>【博士前期課程】</p> <p>(1) どのような人材を養成し、どのような人材を世に送り出すか 各自の研究課題を軸として、広く日本文学文化分野を考究し、国際化時代に適応する高度教養人や高度職業人、とりわけ、研究実践に基づく卓越した能力を持つ国語科中等教育教員などの人材を養成することを目的とする。</p> <p>(2) 学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的 国際化時代に対応した日本文学文化の研究実践を通して、哲学的洞察力をもって文化の継承と創造に積極的に寄与しうる研究能力を習得させることを目的とする。</p> <p>【博士後期課程】</p> <p>(1) どのような人材を養成し、どのような人材を世に送り出すか 専門知識を学術的に展開する研究者としての資質を成長させ、研究能力を生かした日本文学文化分野の研究職員及び国際社会に対応できるような高度な専門的業務に従事できる人材を養成することを目的とする。</p> <p>(2) 学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的 国際化時代に対応した日本文学文化の研究実践を通して、哲学的洞察力をもって文化の継承と創造に積極的に寄与しうる専門的かつ高度な研究能力とそれを社会に還元できる能力を習得させることを目的とする。</p>

文学研究科中国哲学専攻

人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的
<p>【博士前期課程】</p> <p>(1) どのような人材を養成し、どのような人材を世に送り出すか 中国哲学・中国文学・中国語を三位一体のものとして学び、古典を理解する教養を持つとともに、現代の中国をも理解する力を持ち、これを活用して幅広く社会で活躍できる人材を養成することを目的とする。</p> <p>(2) 学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的 原典読解力と中国学の学習で得た知見とに基づいて物事を合理的に考察し、それを論理的に表現できる能力を習得させることを目的とする。</p> <p>【博士後期課程】</p> <p>(1) どのような人材を養成し、どのような人材を世に送り出すか 優れた原典読解力に基づいて、東アジア漢字文化圏の支柱となってきた中国の哲学および文学遺産の歴史的・今日的意義を明らかにして社会に寄与できる人材を養成することを目的とする。</p> <p>(2) 学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的 独自の手法や視点に基づき、高度な知見と見識を駆使して、中国の哲学や文学の意義を明らかにすることで社会に寄与する研究論文を作成できる能力を習得させることを目的とする。</p>

文学研究科英文学専攻

人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的
<p>【博士前期課程】</p> <p>(1) どのような人材を養成し、どのような人材を世に送り出すか 英語の十分な運用能力と英米文化についての基礎的知識を有し、これを教育、研究あるいは一般社会におけるその他の専門領域において活用できる人材を養成することを目的とする。</p> <p>(2) 学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的 近代英語で書かれた文学テキストを読み、必要な文献を参照して、学術スタイルの論文・レポートを書くことができる能力を養成し、これを通して修了後の多方面でのキャリアのために十分な英語運用能力と英米文化についての基礎知識を身につけさせ、社会の多方面で応用できる専門的かつ実践的能力を習得させることを目的とする。</p> <p>【博士後期課程】</p> <p>(1) どのような人材を養成し、どのような人材を世に送り出すか 前期課程で養われた能力を基盤として、英語の十分な運用能力と英米文化についての高度な知識を有し、これを教育、研究あるいは一般社会におけるその他の専門領域において活用できる人材を養成することを目的とする。</p> <p>(2) 学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的 英米文学・語学において博士号を取得できる水準の自立的研究能力を養成する。このために文学テキスト・語学資料はもちろん、多方面にわたる研究書を読みこなし、これらの諸資料を適切に処理することによって、独創的な論文を書き、発表できる力を持てるよう指導する。こうして得られた学識と英語力を活かして、研究職のみならず社会の多方面で活躍できる能力を習得させることを目的とする。</p>

文学研究科史学専攻

人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的
<p>【博士前期課程】</p> <p>(1) どのような人材を養成し、どのような人材を世に送り出すか 歴史に対する深い知識と洞察力を持ち、学校教育、社会教育、ならびに情報産業等の幅広い分野で活躍する、高度の専門性を持つ人材を養成することを目的とする。</p> <p>(2) 学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的 日本史学・東洋史学・西洋史学の3コースを置き、歴史を幅広く理解するとともに、専門領域を深く探求する研究能力、およびそれを利用して社会に貢献する能力を習得させることを目的とする。また、博士後期課程進学のための研究能力を習得させることを目的とする。</p> <p>【博士後期課程】</p> <p>(1) どのような人材を養成し、どのような人材を世に送り出すか 専門とする歴史学の領域において独創的な研究により学界に寄与し、歴史研究者として自立した研究活動を営み、その能力を通じて社会に貢献できる人材を養成することを目的とする。</p> <p>(2) 学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的 日本史学・東洋史学・西洋史学に関わる多くの専門科目を置き、歴史を幅広く理解するとともに、専門領域に深い学識を有し、新たな体系的知見を学界・社会に還元する能力を習得させることを目的とする。</p>

文学研究科教育学専攻

人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的
<p>【博士前期課程】</p> <p>(1) どのような人材を養成し、どのような人材を世に送り出すか 教育について高い見識を持ち、学校教育、社会教育で活躍する高度職業人、および行政機関や非営利団体、知識情報産業などで活躍する人材の養成を目的とする。</p> <p>(2) 学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的 教育諸問題について広い視野に立つことを可能にする深い学識、および教育関連諸分野における実践的かつ専門的能力を習得させることを目的とする。</p> <p>【博士後期課程】</p> <p>(1) どのような人材を養成し、どのような人材を世に送り出すか 教育学・心理学を学んだ成果を生かし、学校教育や社会教育分野において指導的立場で活躍する高度職業人、および行政機関や非営利団体、知識情報産業などで活躍する指導的人材の養成を目的とする。</p> <p>(2) 学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的 教育諸問題について幅広い視野から研究する力量、および自立的な研究者に必要な研究能力、さらには、教育関連諸分野において指導的立場で活躍できる資質と能力を習得させることを目的とする。</p>

文学研究科英語コミュニケーション専攻

人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的
<p>【博士前期課程】</p> <p>(1) どのような人材を養成し、どのような人材を世に送り出すか 中高の英語教育を担える人材及び社会で実践的なコミュニケーション能力を発揮できる人材を養成することを目的とする。</p> <p>(2) 学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的 英語によるコミュニケーションの高度な運用能力を習得させることを目的とする。</p> <p>【博士後期課程】</p> <p>(1) どのような人材を養成し、どのような人材を世に送り出すか 実践的コミュニケーション能力を備えた上で、高度な知識を持ち自立的に活動できる人材を養成することを目的とする。</p> <p>(2) 学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的 実践的コミュニケーションの能力を自由に駆使しながら、専門的な研究・教育活動を推進できる能力を習得させることを目的とする。</p>

別表第2 学位授与、教育課程編成・実施及び入学者の受入に関する方針

文学研究科哲学専攻

<p>1. 学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）</p> <p>【博士前期課程】 以下の資質や能力を身につけたうえで、所定の年限・単位数等を満たし、修士学位論文の審査及び最終試験に合格した者に対して、修士の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 従来の研究成果を十分に吸収した上で、その適切な活用を行う能力を身につけている。(2) 当該研究分野において新たな知見を付与する独創性を身につけている。(3) 分析の面においても論理展開の面においても、自立的な研究者として研究活動を行うことのできる、高度な研究能力を示す実証性、体系性を身につけている。(4) 高度な専門的業務を遂行するに十分な学識と能力を身につけている。 <p>【博士後期課程】 以下の資質や能力を身につけたうえで、所定の年限を満たし、博士学位論文の審査及び最終試験に合格した者に対して、博士の学位を授与する。 博士前期課程の学位授与に求められる資質や能力を備えた上で、学界や社会に寄与する論文を執筆する研究能力を身につけている。</p>
<p>2. 教育課程編成・実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）</p> <p>【博士前期課程】</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 教育課程の編成 / 教育内容・方法 「哲学研究指導」科目を中心に、「古代哲学、中世哲学、近世哲学、現代哲学、比較哲学、論理学、倫理学、実践哲学」等の科目を幅広く開講し、各自の専門領域の外国語テキストの解読、解釈を徹底するとともに、精神医学など多方面の知識を習得させる。また研究指導においては、各自のテーマに合わせて、そのテーマに必要な能力の養成を行う。(2) 学修成果の評価 学修成果の評価については、以下の要素・方法により評価する。<ol style="list-style-type: none">① 授業科目については、あらかじめ示す成績評価基準に沿って、各授業科目のシラバスに記載されている方法により、授業担当教員が評価する。② 研究指導については、研究過程における達成度を、あらかじめ示す研究指導計画をもとに、論文報告会等を通じて、研究指導教員および本専攻所属教員により組織的に評価する。③ 学位請求論文については、あらかじめ示す論文審査基準、審査体制に基づき、評価を行う。 <p>【博士後期課程】</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 教育課程の編成 / 教育内容・方法 1年間の海外留学を推奨し、外国語テキストの一次文献、二次文献の読解力、作文力の習得を目指す。また、実践哲学を通しての実践領域における諸問題の哲学的解明を有効に展開しうる能力を養成し、各自の論文課題にしたがって科目を選択できる教育課程を整備する。(2) 学修成果の評価 学修成果の評価については、以下の要素・方法により評価する。<ol style="list-style-type: none">① 授業科目については、あらかじめ示す成績評価基準に沿って、各授業科目のシラバスに記載されている方法により、授業担当教員が評価する。② 研究指導については、研究過程における達成度を、あらかじめ示す研究指導計画をもとに、論文報告会等を通じて、研究指導教員および本専攻所属教員により組織的に評価する。③ 学位請求論文については、あらかじめ示す論文審査基準、審査体制に基づき、評価を行う。
<p>3. 入学者の受入に関する方針（アドミッション・ポリシー）</p> <p>本専攻の目的に即して、理論哲学と実践哲学のどちらを中心にするにしても、両方の統合に努力し、社会における諸問題に関して統合的哲学研究を通して解決する能力を有する人材の養成に努めるべく、それにふさわしい知識、能力、意欲のある人材を受け入れる。</p> <p>【博士前期課程】 入学希望者の特性に応じた適切な方法で多様な入学者選抜試験を実施し、筆記試験、面接、書類選考等を通じて、以下の資質や能力を示した者を受け入れる。</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 問題の中心的な課題を見出すための知識のある者(2) 解決の選択肢を複数個設定することのできる能力のある者(3) 上記に必要な持続的な作業を支える意欲のある者 <p>【博士後期課程】 入学希望者の特性に応じた適切な方法で多様な入学者選抜試験を実施し、筆記試験、面接、書類選考等を通じて、以下の資質や能力を示した者を受け入れる。</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 問題の中心的な課題を見出し、さらに新たな問題そのものを発見していくための知識のある者(2) 解決の選択肢を複数個設定し、手続き的な優先順位を決めることのできる能力のある者(3) 上記に必要な持続的な作業を発展的に支える意欲のある者

文学研究科インド哲学仏教学専攻

<p>1. 学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）</p> <p>【博士前期課程】 以下の資質や能力を身につけたうえで、所定の年限・単位数等を満たし、修士学位論文の審査及び最終試験に合格した者に対して、修士の学位を授与する。</p> <p>(1) 仏教思想と文化、またはインド思想と文化に関する専門的な知識を身につけている。 (2) 仏教思想と文化、またはインド思想と文化に関する知識を実社会で活用できる能力を身につけている。 (3) 仏教思想と文化、またはインド思想と文化に関する研究能力を身につけている。</p> <p>【博士後期課程】 以下の資質や能力を身につけたうえで、所定の年限を満たし、博士学位論文の審査及び最終試験に合格した者に対して、博士の学位を授与する。</p> <p>(1) 当該分野における従来の研究成果を十分に吸収し批判できる能力を身につけている。 (2) 当該分野の研究において新知見を付与し、独自性を発揮できる能力を身につけている。 (3) 研究に必要な高い学識と自立的な研究能力を身につけている。</p>
<p>2. 教育課程編成・実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）</p> <p>【博士前期課程】</p> <p>(1) 教育課程の編成 / 教育内容・方法 ディプロマ・ポリシーの達成のために、「授業科目（コースワーク）」と「研究指導（リサーチワーク）」を適切に組み合わせた教育課程を体系的に編成する。授業科目は、3領域から構成され、インド思想・文化研究には「インド哲学研究」、仏教思想・文化研究には「インド仏教研究」と「東アジア仏教研究」を開講し、各科目とも講義で研究課題の概説をし、演習では主に原典読解を指導して、当該分野における研究課題と方法の基本を教授する。研究指導はおもに主指導教員が修士論文執筆予定者に個別に論文執筆の具体的な指導をする。</p> <p>(2) 学修成果の評価 学修成果については、客観性及び厳格性を確保しつつ、以下の要素・方法により評価する。</p> <p>① 授業科目については、あらかじめ示す成績評価基準に沿って、各授業科目のシラバスに記載されている方法により、授業担当教員が評価する。 ② 研究指導については、研究過程における達成度を、あらかじめ示す研究指導計画をもとに、論文報告会等を通じて、研究指導教員および本専攻所属教員により組織的に評価する。 ③ 学位請求論文については、あらかじめ示す論文審査基準、審査体制に基づき、評価を行う。</p> <p>【博士後期課程】</p> <p>(1) 教育課程の編成 / 教育内容・方法 ディプロマ・ポリシーの達成のために、「授業科目（コースワーク）」と「研究指導（リサーチワーク）」を適切に組み合わせた教育課程を体系的に編成する。授業科目はインド思想・文化研究および仏教思想・文化研究のために各々「特殊研究」を開講し、各科目とも講義で高度な研究課題を提示し、演習では研究動向の指導と主に原典読解を指導して、博士論文執筆予定者の資料研究を教授する。研究指導はおもに主指導教員が個別に論文執筆ならびに学会発表の具体的な指導をする。また、研究分野・内容によって海外の研究機関への留学も薦める。</p> <p>(2) 学修成果の評価 学修成果については、客観性及び厳格性を確保しつつ、以下の要素・方法により評価する。</p> <p>① 授業科目については、あらかじめ示す成績評価基準に沿って、各授業科目のシラバスに記載されている方法により、授業担当教員が評価する。 ② 研究指導については、研究過程における達成度を、あらかじめ示す研究指導計画をもとに、論文報告会等を通じて、研究指導教員および本専攻所属教員により組織的に評価する。 ③ 学位請求論文については、あらかじめ示す論文審査基準、審査体制に基づき、評価を行う。</p>
<p>3. 入学者の受入に関する方針（アドミッション・ポリシー）</p> <p>【博士前期課程】 入学希望者の特性に応じた適切な方法で多様な入学者選抜試験を実施し、筆記試験、面接、書類選考等を通じて、以下の資質や能力を示した者を受け入れる。</p> <p>(1) 当該分野に関して基本的で広汎な知識のある者 (2) 誠実で自らを律しながら研究に取り組み、研究資料を十分に読解し、その成果を体系的に表現できる能力のある者 (3) 研究対象に主体的に真摯に取り組み、必要に応じて協働で研究するなどの意欲のある者</p> <p>【博士後期課程】 入学希望者の特性に応じた適切な方法で多様な入学者選抜試験を実施し、筆記試験、面接、書類選考等を通じて、以下の資質や能力を示した者を受け入れる。</p> <p>(1) 当該分野に関する広汎かつ高度な知識と研究動向についての知識のある者 (2) 研究領域に関わる語学能力と独創的研究に耐えうる能力のある者 (3) 自立的に研究を進め、研究者としての社会的倫理性を高める意欲のある者</p>

文学研究科日本文学文化専攻

1. 学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

【博士前期課程】

以下の資質や能力を身につけたうえで、所定の年限・単位数等を満たし、修士学位論文の審査及び最終試験に合格した者に対して、修士の学位を授与する。

- (1) 専門分野における基礎的な研究能力を身につけている。
- (2) 哲学的洞察力をもって文化の継承と創造に積極的に寄与しうる能力を身につけている。

【博士後期課程】

以下の資質や能力を身につけたうえで、所定の年限を満たし、博士学位論文の審査及び最終試験に合格した者に対して、博士の学位を授与する。

- (1) 専門分野における高度な研究能力を身につけている。
- (2) 哲学的洞察力をもって文化の継承と創造に積極的に寄与しうる能力を身につけている。
- (3) 日本文学文化分野の教職員や国際社会の専門的業務に従事できる能力を身につけている。

2. 教育課程編成・実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

【博士前期課程】

(1) 教育課程の編成 / 教育内容・方法

ディプロマ・ポリシーの達成のために、「授業科目（コースワーク）」と「研究指導（リサーチワーク）」を適切に組み合わせた教育課程を体系的に編成する。授業科目は、古代日本から近現代日本に至る文学文化と日本語を中核に、講義科目と演習科目を有機的に連携させて配列するとともに、文化間融合の観点から「隣接領域科目」を、日本文学文化を相対化、比較対照する観点から「比較文学文化科目」を、それぞれ講義科目として設置し、各自が専門的かつ横断的に選択履修できるよう編成する。いずれも専門分野を幅広い視点から探究できるよう学問領域のエッセンスとテーマを掲げて教授する。研究指導は個人指導を重視し、各自が自らの研究課題を明確に設定、追究できるよう、問題の設定、分析の方法、参考文献や論文作成の方法などを、専門性の高いレベルできめ細かに指導する。

(2) 学修成果の評価

学修成果については、客観性及び厳格性を確保しつつ、以下の要素・方法により評価する。

- ① 授業科目については、あらかじめ示す成績評価基準に沿って、各授業科目のシラバスに記載されている方法により、授業担当教員が評価する。
- ② 研究指導については、研究過程における達成度を、あらかじめ示す研究指導計画をもとに、論文報告会等を通じて、研究指導教員および本専攻所属教員により組織的に評価する。
- ③ 学位請求論文については、あらかじめ示す論文審査基準、審査体制に基づき、評価を行う。

【博士後期課程】

(1) 教育課程の編成 / 教育内容・方法

ディプロマ・ポリシーの達成のために、「授業科目（コースワーク）」と「研究指導（リサーチワーク）」を適切に組み合わせた教育課程を体系的に編成する。授業科目は、各自が専門分野をより深く探求できるよう、古代日本から近現代日本に至る文学文化と日本語についての講義科目を配列し、専門領域の現代的課題を教授する。研究指導は個人指導を重視し、各自が自らの研究課題を明確に定め追究できるよう、問題の設定、分析の方法、参考文献や論文作成の方法などを、専門性の高いレベルできめ細かに指導する。

(2) 学修成果の評価

学修成果については、客観性及び厳格性を確保しつつ、以下の要素・方法により評価する。

- ① 授業科目については、あらかじめ示す成績評価基準に沿って、各授業科目のシラバスに記載されている方法により、授業担当教員が評価する。
- ② 研究指導については、研究過程における達成度を、あらかじめ示す研究指導計画をもとに、論文報告会等を通じて、研究指導教員および本専攻所属教員により組織的に評価する。
- ③ 学位請求論文については、あらかじめ示す論文審査基準、審査体制に基づき、評価を行う。

3. 入学者の受入に関する方針（アドミッション・ポリシー）

【博士前期課程】

入学希望者の特性に応じた適切な方法で多様な入学者選抜試験を実施し、筆記試験、面接、書類選考等を通じて、以下の資質や能力を示した者を受け入れる。

- (1) 日本語・日本文学の基礎知識のある者
- (2) 文学の基礎的読解力、外国語・漢文の基礎的能力のある者
- (3) 国際的視野に基づく文化の継承と創造への参画に意欲のある者

【博士後期課程】

入学希望者の特性に応じた適切な方法で多様な入学者選抜試験を実施し、筆記試験、面接、書類選考等を通じて、以下の資質や能力を示した者を受け入れる。

- (1) 高度な専門知識と論理性を持つ修士論文を執筆できる能力を有している者
- (2) 日本語・日本文学の専門知識のある者
- (3) 外国語の基礎的能力のある者
- (4) 国際的視野に基づく文化の継承と創造への参画に意欲のある者

文学研究科中国哲学専攻

1. 学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

【博士前期課程】

以下の資質や能力を身につけたうえで、所定の年限・単位数等を満たし、修士学位論文の審査及び最終試験に合格した者に対して、修士の学位を授与する。

- (1) 中国の哲学や文学について専門的な知識を有し、正確な原典読解力を身につけている。
- (2) 漢文（中国文）で著された中国古典および近現代作品の原典に基づいて、自ら考え設定した課題を考察する力を身につけている。

【博士後期課程】

以下の資質や能力を身につけたうえで、所定の年限を満たし、博士学位論文の審査及び最終試験に合格した者に対して、博士の学位を授与する。

- (1) 中国の哲学や文学作品読解に関して、独自の手法や視点を身につけている。
- (2) 中国の哲学や文学作品について深い学識を有するとともに、主体的な問題意識に基づいて研究論文を作成する力を身につけている。
- (3) 高度な知見と見識の反映する研究成果を世に問い、学界に寄与する高度な水準の研究能力を身につけている。

2. 教育課程編成・実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

【博士前期課程】

(1) 教育課程の編成 / 教育内容・方法

ディプロマ・ポリシーの達成のために、「授業科目（コースワーク）」と「研究指導（リサーチワーク）」を適切に組み合わせた教育課程を体系的に編成する。授業科目は、中国哲学・中国文学・中国語学にわたる演習科目や特論科目を配置し、原典の読解力を深めるとともに、文献の扱いに習熟するために、専門とする領域に上記三分野の科目を取組んで、重層的な中国理解を目指す。研究指導は、「研究指導」科目を設置し、研究方法の確立を目指して、論文作成の手順を指導する。

(2) 学修成果の評価

学修成果については、客観性及び厳格性を確保しつつ、以下の要素・方法により評価する。

- ① 授業科目については、あらかじめ示す成績評価基準に沿って、各授業科目のシラバスに記載されている方法により、授業担当教員が評価する。
- ② 研究指導については、研究過程における達成度を、あらかじめ示す研究指導計画をもとに、論文報告会等を通じて、研究指導教員および本専攻所属教員により組織的に評価する。
- ③ 学位請求論文については、あらかじめ示す論文審査基準、審査体制に基づき、評価を行う。

【博士後期課程】

(1) 教育課程の編成 / 教育内容・方法

ディプロマ・ポリシーの達成のために、「授業科目（コースワーク）」と「研究指導（リサーチワーク）」を適切に組み合わせた教育課程を体系的に編成する。授業科目は、中国哲学・中国文学に関わる「特殊研究」を配置し、文献の批判的検討と分析を行いつつ、優れた文献読解能力を涵養するとともに、独自の研究方法構築への方途を教授する。研究指導は、「特殊研究」と密接に結びついた「研究指導」科目によって、独自の手法や視点に基づいた研究論文の作成方法を指導する。

(2) 学修成果の評価

学修成果については、客観性及び厳格性を確保しつつ、以下の要素・方法により評価する。

- ① 授業科目については、あらかじめ示す成績評価基準に沿って、各授業科目のシラバスに記載されている方法により、授業担当教員が評価する。
- ② 研究指導については、研究過程における達成度を、あらかじめ示す研究指導計画をもとに、論文報告会等を通じて、研究指導教員および本専攻所属教員により組織的に評価する。
- ③ 学位請求論文については、あらかじめ示す論文審査基準、審査体制に基づき、評価を行う。

3. 入学者の受入に関する方針（アドミッション・ポリシー）

【博士前期課程】

入学希望者の特性に応じた適切な方法で多様な入学者選抜試験を実施し、筆記試験、面接、書類選考等を通じて、以下の資質や能力を示した者を受け入れる。

- (1) 中国哲学・中国文学・中国語に関する基礎的知識のある者
- (2) 文献の基本的読解能力をもち、文献を扱う基本的な訓練を経ている者
- (3) 中国哲学・文学研究に、専門的に取り組もうとする意欲のある者

【博士後期課程】

入学希望者の特性に応じた適切な方法で多様な入学者選抜試験を実施し、筆記試験、面接、書類選考等を通じて、以下の資質や能力を示した者を受け入れる。

- (1) 中国哲学・中国文学・中国語に関する高度な知識のある者
- (2) 優れた文献読解能力を持ち、文献の扱いに習熟した能力のある者
- (3) 中国哲学・文学研究を深化させ、研究成果を研究論文の作成を通して発表してゆく意欲のある者

文学研究科英文学専攻

<p>1. 学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）</p> <p>【博士前期課程】 以下の資質や能力を身につけたうえで、所定の年限・単位数等を満たし、修士学位論文または特定の課題についての研究の成果（特定課題研究論文）の審査及び最終試験に合格した者に対して、修士の学位を授与する。 (1) 英語の十分な運用能力と英米文化についての基礎的知識を身につけている。 (2) この能力と知識を、教育・研究・その他の専門領域において活用できる資質を身につけている。</p> <p>【博士後期課程】 以下の資質や能力を身につけたうえで、所定の年限を満たし、博士学位論文の審査及び最終試験に合格した者に対して、博士の学位を授与する。 (1) 博士前期課程で養われた能力を基盤として、さらに高度な英語の運用能力と英米文化についての広範囲にわたる知識を身につけている。 (2) この能力と知識を、教育・研究・その他の専門領域において活用し、一般社会に対して積極的に貢献できる資質を身につけている。</p>
<p>2. 教育課程編成・実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）</p> <p>【博士前期課程】 (1) 教育課程の編成 / 教育内容・方法 ディプロマ・ポリシーの達成のために、「授業科目（コースワーク）」と「研究指導（リサーチワーク）」を適切に組み合わせた教育課程を体系的に編成する。授業科目は英文学・米文学・英語学の三分野に対して均等に演習と講義科目を配列し、受講生との対話を重視する形で、それぞれの研究分野の現状、方法論などを教授する。研究指導は受講生個人々の要望を聞きながら受講生との対話を重視する形で、研究の対象、目標、それに応じた方法、方針を指導する。 (2) 学修成果の評価 学修成果については、客観性及び厳格性を確保しつつ、以下の要素・方法により評価する。 ① 授業科目については、あらかじめ示す成績評価基準に沿って、各授業科目のシラバスに記載されている方法により、授業担当教員が評価する。 ② 研究指導については、研究過程における達成度を、あらかじめ示す研究指導計画をもとに、論文報告会等を通じて、研究指導教員および本専攻所属教員により組織的に評価する。 ③ 学位請求論文については、あらかじめ示す論文審査基準、審査体制に基づき、評価を行う。</p> <p>【博士後期課程】 (1) 教育課程の編成 / 教育内容・方法 ディプロマ・ポリシーの達成のために、「授業科目（コースワーク）」と「研究指導（リサーチワーク）」を適切に組み合わせた教育課程を体系的に編成する。授業科目においては、受講生との対話を重視する形で、それぞれの研究分野の現状、方法論などを分析、検討する。研究指導においては、全国的あるいは国際的な学会での発表を念頭に、受講生が追究する研究の対象、目標、それに応じた方法、方針を検討する。ひいては博士論文の執筆につなげることを目的に、受講生との対話を重視し、個人々の要望を聞きながら、研究指導を進める。 (2) 学修成果の評価 学修成果については、客観性及び厳格性を確保しつつ、以下の要素・方法により評価する。 ① 授業科目については、あらかじめ示す成績評価基準に沿って、各授業科目のシラバスに記載されている方法により、授業担当教員が評価する。 ② 研究指導については、研究過程における達成度を、あらかじめ示す研究指導計画をもとに、論文報告会等を通じて、研究指導教員および本専攻所属教員により組織的に評価する。 ③ 学位請求論文については、あらかじめ示す論文審査基準、審査体制に基づき、評価を行う。</p>
<p>3. 入学者の受入に関する方針（アドミッション・ポリシー）</p> <p>【博士前期課程】 入学希望者の特性に応じた適切な方法で多様な入学者選抜試験を実施し、筆記試験、面接、書類選考等を通じて、以下の資質や能力を示した者を受け入れる。 (1) 基本的な英語運用能力と英米文化に関する知識のある者 (2) 自己啓発に熱意をもって取り組む能力のある者 (3) 誠実に自らを律しつつ、研究に取り組む意欲のある者</p> <p>【博士後期課程】 入学希望者の特性に応じた適切な方法で多様な入学者選抜試験を実施し、筆記試験、面接、書類選考等を通じて、以下の資質や能力を示した者を受け入れる。 (1) 博士前期課程修了程度の英語運用能力と英米文化に関する知識のある者 (2) 創造的研究に耐えうる能力のある者 (3) 研究者として社会的倫理性を高めようとする意欲のある者</p>

文学研究科史学専攻

<p>1. 学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）</p> <p>【博士前期課程】 以下の資質や能力を身につけたうえで、所定の年限・単位数等を満たし、修士学位論文の審査及び最終試験に合格した者に対して、修士の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 歴史について基本的な知識を有し、専門とする領域について専門的知識があり、新たな知見を社会に還元する能力を身につけている。(2) 歴史学的な研究方法に基づいて新たな知見を導き、学界の水準に達する修士学位論文を作成する能力を身につけている。 <p>【博士後期課程】 以下の資質や能力を身につけたうえで、所定の年限を満たし、博士学位論文の審査及び最終試験に合格した者に対して、博士の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 歴史について広い視野と深い学識を有し、専門とする領域について高度な専門的知識があり、研究成果を通じて新たな知見を学界・社会に還元する能力を身につけている。(2) 独創性に富む問題意識、および歴史学的な研究方法に基づく論理的分析により、学界に寄与する博士学位論文を作成する高度な研究能力を身につけている。
<p>2. 教育課程編成・実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）</p> <p>【博士前期課程】</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 教育課程の編成 / 教育内容・方法 ディプロマ・ポリシーの達成のために、「授業科目（コースワーク）」と「研究指導（リサーチワーク）」を適切に組み合わせた教育課程を体系的に編成する。授業科目は日本史・東洋史・西洋史の3コースから構成され、政治・経済・社会・文化の幅広い領域について総合的な理解力を養成する科目を配置し、少人数の講義・演習により、史料を丹念に検証して史実を分析する歴史学的な研究方法や、最新の研究動向をふまえた学問的な知見を教授する。研究指導は、最新の研究動向をふまえて自ら課題を設定し、歴史学的な研究方法に基づいて新たな知見が導けるよう、個々の研究課題に即してきめ細かく指導する。(2) 学修成果の評価 学修成果については、客観性及び厳格性を確保しつつ、以下の要素・方法により評価する。<ol style="list-style-type: none">① 授業科目については、あらかじめ示す成績評価基準に沿って、各授業科目のシラバスに記載されている方法により、授業担当教員が評価する。② 研究指導については、研究過程における達成度を、あらかじめ示す研究指導計画をもとに、論文報告会等を通じて、研究指導教員および本専攻所属教員により組織的に評価する。③ 学位請求論文については、あらかじめ示す論文審査基準、審査体制に基づき、評価を行う。 <p>【博士後期課程】</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 教育課程の編成 / 教育内容・方法 ディプロマ・ポリシーの達成のために、「授業科目（コースワーク）」と「研究指導（リサーチワーク）」を適切に組み合わせた教育課程を体系的に編成する。授業科目は、政治・経済・社会・文化の幅広い領域について歴史的な理解力を養成する科目を配置し、少人数の講義・演習により、史料を丹念に検証して史実を分析する歴史学的な研究方法や、最新の研究動向をふまえた学問的な知見を教授する。研究指導は、最新の研究動向をふまえて自ら課題を体系的に設定し、歴史学的な研究方法に基づいて、学界に寄与できる優れた研究成果が導けるよう、個々の研究課題に即してきめ細かく指導する。(2) 学修成果の評価 学修成果については、客観性及び厳格性を確保しつつ、以下の要素・方法により評価する。<ol style="list-style-type: none">① 授業科目については、あらかじめ示す成績評価基準に沿って、各授業科目のシラバスに記載されている方法により、授業担当教員が評価する。② 研究指導については、研究過程における達成度を、あらかじめ示す研究指導計画をもとに、論文報告会等を通じて、研究指導教員および本専攻所属教員により組織的に評価する。③ 学位請求論文については、あらかじめ示す論文審査基準、審査体制に基づき、評価を行う。
<p>3. 入学者の受入に関する方針（アドミッション・ポリシー）</p> <p>【博士前期課程】 入学希望者の特性に応じた適切な方法で多様な入学者選抜試験を実施し、筆記試験、面接、書類選考等を通じて、以下の資質や能力を示した者を受け入れる。</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 歴史について基本的な知識のある者(2) 史料の解釈能力、総合的な思考力・判断能力があり、学修成果を正確に伝えるコミュニケーション能力のある者(3) 歴史研究の基礎となる専門的知識や歴史学的な研究方法を、主体的に学ぶ意欲のある者 <p>【博士後期課程】 入学希望者の特性に応じた適切な方法で多様な入学者選抜試験を実施し、筆記試験、面接、書類選考等を通じて、以下の資質や能力を示した者を受け入れる。</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 歴史についての基本的な知識、専門とする領域についての専門的知識のある者(2) 歴史学的な研究方法を修得し、優れた研究能力があり、新たな知見を学界・社会に伝えるコミュニケーション能力のある者(3) 歴史について広い視野と深い学識があり、研究に主体的に取り組む意欲のある者

文学研究科教育学専攻

1. 学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

【博士前期課程】

以下の資質や能力を身につけたうえで、所定の年限・単位数等を満たし、修士学位論文または特定の課題についての研究の成果（特定課題研究論文）の審査及び最終試験に合格した者に対して、修士の学位を授与する。

- (1) 研究の社会的意義と目的を理解し、自ら設定したテーマにもとづいて研究を遂行し、研究を通じて社会に貢献する資質や能力を身につけている。
- (2) 広い知識と洞察力、倫理観を備え、教育学の視点から発言し、社会に貢献できる資質や能力を身につけている。

【博士後期課程】

以下の資質や能力を身につけたうえで、所定の年限を満たし、博士学位論文の審査及び最終試験に合格した者に対して、博士の学位を授与する。

- (1) 独自の実証と分析考察、および論理構成にもとづいた独創的な研究によって社会に貢献できる資質や能力を身につけている。
- (2) 広汎な知識と深い洞察力、高い倫理観を備え、教育学の視点から社会に発信し、貢献する資質や能力を身につけている。

2. 教育課程編成・実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

【博士前期課程】

(1) 教育課程の編成 / 教育内容・方法

ディプロマ・ポリシーの達成のために、「授業科目（コースワーク）」と「研究指導（リサーチワーク）」を適切に組み合わせた教育課程を体系的に編成する。授業科目は、「学校教育」「教育心理・相談」「生涯学習」「特別支援教育」の4領域を中心に、それぞれ研究方法論・研究史から最新の研究課題を扱ったものを配列し、少人数の演習形式によって、学生自らが社会的に意義ある研究課題と研究計画を立案・実行できるよう指導する。研究指導は、主指導教授、副指導教授の指導のもと、学生の問題意識・研究関心、職場や地域で抱える課題に即して、改善や解決に資する実践的な研究を行えるよう配慮する。

また、教育職員としての高い専門性をめざす者が所定の単位を修得した場合、中学校教諭（社会）、高等学校教諭（地理歴史・公民）、特別支援学校教諭、小学校教諭 等の教育職員専修免許状を取得することができるよう、免許取得に必要な科目を設置する。

(2) 学修成果の評価

学修成果については、客観性及び厳格性を確保しつつ、以下の要素・方法により評価する。

- ① 授業科目については、あらかじめ示す成績評価基準に沿って、各授業科目のシラバスに記載されている方法により、授業担当教員が評価する。
- ② 研究指導については、研究過程における達成度を、あらかじめ示す研究指導計画をもとに、論文報告会等を通じて、研究指導教員および本専攻所属教員により組織的に評価する。
- ③ 学位請求論文については、あらかじめ示す論文審査基準、審査体制に基づき、評価を行う。

【博士後期課程】

(1) 教育課程の編成 / 教育内容・方法

ディプロマ・ポリシーの達成のために、「授業科目（コースワーク）」と「研究指導（リサーチワーク）」を適切に組み合わせた教育課程を体系的に編成する。授業科目は、「学校教育」「教育心理・相談」「生涯学習」「特別支援教育」の4領域を中心に、それぞれ研究方法論・研究史から最新の研究課題を扱ったものを配列し、少人数の演習形式によって、学生が独創的で社会的に意義ある研究課題と研究計画を立案・実行できるよう指導する。また研究指導は、主指導教授、副指導教授の指導のもと、学生の問題意識や研究関心、職場や地域で抱える課題、さらには世界的課題に即して、問題解決や改善、社会的提言に資する、高度な研究を行えるよう配慮する。

(2) 学修成果の評価

学修成果については、客観性及び厳格性を確保しつつ、以下の要素・方法により評価する。

- ① 授業科目については、あらかじめ示す成績評価基準に沿って、各授業科目のシラバスに記載されている方法により、授業担当教員が評価する。
- ② 研究指導については、研究過程における達成度を、あらかじめ示す研究指導計画をもとに、論文報告会等を通じて、研究指導教員および本専攻所属教員により組織的に評価する。
- ③ 学位請求論文については、あらかじめ示す論文審査基準、審査体制に基づき、評価を行う。

3. 入学者の受入に関する方針（アドミッション・ポリシー）

【博士前期課程】

入学希望者の特性に応じた適切な方法で多様な入学者選抜試験を実施し、筆記試験、面接、書類選考等を通じて、以下の資質や能力を示した者を受け入れる。

- (1) 教育学や心理学のほか現代の教育問題や関連諸分野についての一般的知識のある者。
- (2) 文献読解や論文作成、調査など研究に必要な基礎的能力のある者。
- (3) 教育に対する深い関心と広い視野を持ち、真理の探究と研究を通じた社会貢献に対して意欲を持つ者。

【博士後期課程】

入学希望者の特性に応じた適切な方法で多様な入学者選抜試験を実施し、筆記試験、面接、書類選考等を通じて、以下の資質や能力を示した者を受け入れる。

- (1) 教育学や心理学のほか現代の教育問題や関連諸分野についての広範な知識のある者。
- (2) 文献読解や論文作成、調査など研究に必要な能力のある者。
- (3) 教育に対する深い関心と広い視野を持ち、真理の探究と研究を通じた社会貢献に対して高い倫理観と志を持つ者。

文学研究科英語コミュニケーション専攻

<p>1. 学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）</p> <p>【博士前期課程】 以下の資質や能力を身につけたうえで、所定の年限・単位数等を満たし、修士学位論文の審査及び最終試験に合格した者に対して、修士の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 基本的な英語の文献の読解力を身につけている。(2) 文献を批判的に分析し、それをコミュニケーションに生かす能力を身につけている。(3) 論理的に命題を展開し、コミュニケーションをすることのできる能力を身につけている。(4) グローバル化する社会に貢献できる高度な実践的英語コミュニケーション能力を身につけている。 <p>【博士後期課程】 以下の資質や能力を身につけたうえで、所定の年限を満たし、博士学位論文の審査及び最終試験に合格した者に対して、博士の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 英語文献に関する専門的な分析能力を身につけている。(2) 高度な論理的思考力があり、かつ命題を創造的に展開し、コミュニケーションをとれる能力を身につけている。(3) 研究においても実践的コミュニケーションにおいても顕著な独創性を発揮できる能力を身につけている。
<p>2. 教育課程編成・実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）</p> <p>【博士前期課程】</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 教育課程の編成 / 教育内容・方法 ディプロマ・ポリシーの達成のために、「授業科目（コースワーク）」と「研究指導（リサーチワーク）」を適切に組み合わせた教育課程を体系的に編成する。授業科目は演習科目及び講義科目を効率的に配置し、演習・講義を通して各自が主体的に取り組むことで、文献調査の分析力、読解力、論理的思考力の向上を図れるように教授する。研究指導は関心のある命題の分析かつ論理的展開の仕方を指導し、独創的な研究を行えるように指導する。(2) 学修成果の評価 学修成果については、客観性及び厳格性を確保しつつ、以下の要素・方法により評価する。 ① 授業科目については、あらかじめ示す成績評価基準に沿って、各授業科目のシラバスに記載されている方法により、授業担当教員が評価する。 ② 研究指導については、研究過程における達成度を、あらかじめ示す研究指導計画をもとに、論文報告会等を通じて、研究指導教員および本専攻所属教員により組織的に評価する。 ③ 学位請求論文については、あらかじめ示す論文審査基準、審査体制に基づき、評価を行う。 <p>【博士後期課程】</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 教育課程の編成 / 教育内容・方法 ディプロマ・ポリシーの達成のために、「授業科目（コースワーク）」と「研究指導（リサーチワーク）」を適切に組み合わせた教育課程を体系的に編成する。授業科目は特殊研究を通して、命題の分析方法、かつ論理的・批判的に展開させる方法を、具体的な事例をもとに教授する。研究指導は作成する論文の命題を持続的に発展かつ深化させるために、文献調査、分析力、論理的思考の展開について、独創的に行えるように指導する。(2) 学修成果の評価 学修成果については、客観性及び厳格性を確保しつつ、以下の要素・方法により評価する。 ① 授業科目については、あらかじめ示す成績評価基準に沿って、各授業科目のシラバスに記載されている方法により、授業担当教員が評価する。 ② 研究指導については、研究過程における達成度を、あらかじめ示す研究指導計画をもとに、論文報告会等を通じて、研究指導教員および本専攻所属教員により組織的に評価する。 ③ 学位請求論文については、あらかじめ示す論文審査基準、審査体制に基づき、評価を行う。
<p>3. 入学者の受入に関する方針（アドミッション・ポリシー）</p> <p>【博士前期課程】 入学希望者の特性に応じた適切な方法で多様な入学者選抜試験を実施し、筆記試験、面接、書類選考等を通じて、以下の資質や能力を示した者を受け入れる。</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 英語教育に対して理解や知識のある者(2) 基本的な英語の運用技能があり、かつ一層の向上を目指す者(3) 異文化理解に対して意欲のある者 <p>【博士後期課程】 入学希望者の特性に応じた適切な方法で多様な入学者選抜試験を実施し、筆記試験、面接、書類選考等を通じて、以下の資質や能力を示した者を受け入れる。</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 英語教育に対して提言できる専門的な知識のある者(2) 高度な英語運用能力への向上を目指す者(3) 異文化理解に柔軟な姿勢を持ちかつ異文化受容に意欲のある者

別表第3 教育課程
省略する。

別表第4 修了に必要な単位等
省略する。

別表第5 教育職員の免許状取得のための授等科目及び単位数
省略する。